



## 「見たり、聞いたり、探ったり」No.241

通算 No.393

青 木 行 雄

「ビレッジプラザ」  
オリ・パラの選手村附属施設  
全国63自治体から木材収集

東京2020、オリ・パラ大会で選手村の近くに大会期間中、選手の生活とるおいを支える施設で、チームの歓迎式や、世界から日本に到着し、選手村に入村する登録や、宿泊施設はないが日本に滞在中に必要なもろもろの事、食堂やレストラン、美容室、クリーニング、雑貨店、カフェ、カメラ店、メディアセンターなどが入る建物、「ビレッジプラザ」と名付けて、建物には国産材の木材を使用し、林業の再生、持続可能な森林の保全に寄与することを目的に、全国の木材団体から木材を募集した。

全国の県・市・町・村、63自治体から参加の手が上がり、オール木材の約6,000平方メートル分の木材で木造平屋の建物が建設された。

この「プロジェクト」では、参加した自治体から木材を借用して「ビレッジプラザ」を建築し、大会終了後はこの地方自治体に木材を返す。解体された木材は各地の公共施設などでレガシーとして活用する。

木材は120mm角の柱を3本、ツイスト(ねじった)形にして、金物にビスで留めつける。120mm×300mmなどの梁を3段にかけて屋根構造を構成する特徴的なデザインの「レシプロカル架構」を中心に「格子梁架構」とC棟の大スパン13.8mには「トラスアーチ架構」を採用したという。3本ツイスト柱は右回りと左回りのねじりがあり、逆回転にすることで梁に応力を掛け、3.6mのスパンを飛ばしているという。

設計・監理は日建設計、施工は熊谷組・住友林業特定建設工事が担当した。

木材の出荷に当たっては、各地の自治体が出荷式等を開催しオリンピックへの参画を全国にアピールし



ビレッジプラザ完成イメージの写真  
選手村から大通りをはさんで建設されているので、車輪送になるだろう



柱3本ツイスト使用、屋根には竹が施設されている



3本の角材をねじるように組み合わせて耐震性を強める構造を採用している



天井は120×300の集成材を使用、天井もこのままで仕上りである



床に使われた秋田県産の角材、このように全部の木材に焼印が押されている



ここの床も角材で、仕切板で壁部分も使用仕上げはこのままである

たのである。構造材は120mm角をベースに、床等には105mm角を並べるなど、一般流通材サイズの木材を多く使い、接着剤などはいっさい使わず、ビス等で留めて、解体しやすくした。使用後解体して参加自治体に戻した後も、再利用しやすい寸法体系を採用したという。

木材の使用量は全体で1,300 m<sup>3</sup>、東京都は多摩産の杉約45 m<sup>3</sup>を提供したようである。

それではいつ頃からこの計画が始まったのか調べてみた。

#### 事業スケジュール

2016年(平成28年)10月より基本設計が始まった。1年間かけ、2017年(平成29年)9月、続いて、2017年(平成29年)7月より全国の木材自治体に公募実施して、その年の9月までに事業協力者を決定した。

2017年(平成29年)11月より、実施設計に入り、2018年(平成30年)9月までに設計を完了し、木材の調達に入る。

本体工事は、2019年(平成31年)4月から工事が始まって、5月から令和となったが、6月頃までに木材の調達はほぼ完了の予定となっている。本体工事はほぼ12月までに済ませる。



3本ツイスト左ネジレの柱で天井を支えており、下の基礎部分にチップを入れそのままの仕上りという



4寸角の角材で床を作っている。このように産地の焼印が全て押されている

内装工事が、2020年(令和2年)1月より、6月までに完了とされているが、2020年(令和2年)1月29日(水)に東京オリ・パラ組織委員会による内覧会・式典が開催され、木材提供63自治体の代表関係者が出席された。

式典では、森喜朗組織委員会会長、木材提供自治体を代表して、岐阜県の古田知事が挨拶したという。

組織委は、オールジャパンで大会を盛り上げ、環境に配慮した持続可能な大会を実現するため、プロジェクト「日本の木材活用リレー ～ みんなで作る選手村ビレッジプラザ」を推進してきた。全国63自治体から借り受けた木材を使ってビレッジプラザを建設し、大会後に解体された木材は、各自治体の公共施設などでレガシーとして活用していただく。

ビレッジプラザはA～Eの5棟で構成され、延べ床面積は約5,300㎡。廊下を使い全棟を行き来できる。各棟は、それぞれの使用目的に適した3種類の木構造架構が施されている。

この5棟は全国の自治体から提供されたスギやヒノキ、トドマツなど約4万本の木材が使用され、内部には木材のすがすがしい香りが満ちている。

C棟で行われた式典での森喜朗会長の挨拶は「選手村には、選手・関係者ら約1万8,000人が入村するが、このビレッジプラザにおける同プロジェクトは、IOCからも評価が高い。自治体の皆さんには本日、それぞれ提供してもらった木材が、どこに使われているかを見てほしい。そして、大会後にお返しする木材を、特に子どもたちに向けて有意義に活用してほしい」とあいさつされたという。

また小池百合子東京都知事は「大会期間中、多くの選手達を迎えるビレッジプラザが、東京・日本の情報を発信する拠点として、大いににぎわうことを願っている」と話したようである。

式典後、各自治体の関係者達は思い思いの場所で内覧を行い、自身の自治体が提供した木材を確認する様子が見られた。



各部屋に行く廊下だがまだ完成していない。各部屋には自由に行けるようだ



イメージ写真の左側に見える玄関口である、上部に孟宗竹が見える



早川氏が納入した孟宗竹、長さもいろいろあるが、屋根に乗せて使用

この内覧会・式典のあった直後の2月6日(木)に、全買連会長の早川氏より、現場を案内してもらった。氏は千葉産の「孟宗竹」10,000本あまりを竹業者と共同で受注し、全屋根の上に取り付け、冷房の役に立てる為にとの話であるが、5～6本の竹、末口100m/m以上のものを組んで現場まで搬入する契約とか。千葉の千倉で成作し晴海の現場まで、車で100台あまりあったと言う、大変な量である。

オリ・パラの現場にはかなりの木材使用の作業現場が多くあって話題になったが、このオール木材使用の「ビレッジプラザ」は意外と知らない人が多いのではと思った。



3層の木材組合せで屋根には竹がうまく並べてあった。竹は鉄板U字板の上におかれ、水が流れるらしい

とにかく一般の人は見ることは出来ず、オリ・パラが終了すれば、壊して産地にお返りする運命のこの建物、約6,000㎡の木造平屋、40,000本の木材に10,000本の孟宗竹、なんと贅沢な建物ではないか。

#### ※「孟宗竹」

大昔から中国から渡来した物や菌までたくさんあるが、この孟宗竹は中国原産で日本で最も大型の竹である。高さ20mもある。食物の「インゲン豆」等々も中国である。

地方の各自治体より、この施設を造る木材の「出発式」が多くの自治体で大々的に開かれたようだ。ある自治体では有名選手が立ち合うために、出発の日々を延すとか、関係者が晴海の着日に立ち合うとか、それぞれ地方では思惑があって珍場面もあって盛り上がったようである。

令和2年2月末までに東京マラソンが一般走者の中止、2月23日の天皇誕生日一般参加も中止になった。こんな事からと思うが各自治体や、企業の集会在中止となり、私の主催する、3月10日の東京めじろ会

(350人参加)も中止にした。ホテルや会合も100人以上多人数の集会はほとんど中止のようである。このままでは、東京オリ・パラも心配になって来たが、どうかうまく行きますように天にお祈りするだけである。

「ビレッジプラザ」

住所 東京都中央区晴海4-107-7

選手村ビレッジプラザ

参考資料

東京オリ・パラ組織委員会資料

日刊木材新聞社

令和2年2月23日記



五輪選手村イメージ 食堂

出典：<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20190805003828.html>